

実習にて、院内の看護部以外の部署の方と話すことも多かった。病院内清掃がどのようにされているのか、ゴミの処理はどのようにされているのか、ワクチンプログラムがどのようにになっているのか、空調はどのようにになっているのか、その他、長年勤めていても知らなかった多くのことを知った。また、誰にどのように話せば物事が進むのかということも理解できてきた。

② 自施設の問題点がより明確に、具体的となった。

まだ、問題のほんの一部だろうが、指定実習で明確になってきた当院の問題点が、自施設実習でラウンドして回ることでより具体的になった。具体的になったことでどう改善策を立てればよいかということが見えてきた。現在、現場の協力にて少しずつ改善できるところから実践している。

③ 病院全体が感染制御に目が向いてきた。

自施設実習開始時に小林学長に当院にてラウンドして頂いたことで、病院内に研修中であることが理解していただけた。このことは、活動していく上でとても動きやすくコミニカルの部署でも協力が得やすかった。このつながりは今後の大きな力になってくれるものなので大切にしていきたい。

2-2. これからの自分への課題

① 引き続きできるだけラウンドし、現場職員とコミュニケーションをとり、病院全体が感染に向けた眼をそらさず、より興味を持ってもらえるようにし、協力者を増やしていく。

② 当院のまだ一部であろう、明確になってきた問題点を戦略を立てながらできることから解決していく。

③ 常に患者中心に考え、感染・安全・倫理・看護の面から考え行動していけるように、また、看護職全体の質を上げていけるように、自己研鑽していく。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

① 業務をしながら実習時間を確保するのは困難だった。職場にいれば周囲からは実習だということは分かりにくく、病棟内の業務が入ってくる。どちらも中途半端になることもあった。実習時間をまとめるのが良いのか、現行通りが良いのかどちらとも言いがたいのだが、実習中であることが管理にきちんと認識していただけたら有難い。(スケジュール表は提出しているのだが)

② 医師が少なく多忙な状況下で、毎週ICDの指導を受けるのは困難をきわめた。

③ 祭日・夜勤等が入れば実習できないため、時間外に時間確保し、実習することもあった。毎週月曜日の実習記録提出は、900分毎でもよかったかと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

① 最先端で活躍されている先生方に感染教育を受けることができ、講義を受けた先生方に今後も相談にのっていただけることは、とても大きな財産である。

② 一方的な授業方式だけではなく、自分で考える、考え方を学ぶ目的の講義は、常に考えながら行動する・・・

③ 今回の講座で仲間が全国にできたことは、活動していく上でとても心強いものである。

3-2 今後の課題

- ① 感染管理者として信念を持ち組織の中で認められる存在になること。そのために常に専門領域に関する最新情報の習得に心がける。
- ② 組織を横断的に活動する能力を身に付ける。
どの職種へもわかりやすいプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集・整理・分析能力、理解しやすいように説明・説得できる能力を着けるよう学習する。
- ③ 常に公平である、曖昧な判断をしない、笑顔を感染させる。

3-3. 改善すべきこと

- ① 仕事をしながら講座を受けることは、想像以上に大変なものだった。特に、自施設実習が始まってからは実習時間確保と、前泊で学校に通うためほとんど休みがとれない状況下だった。講義をしていただく先生方のご都合もあるだろうが、集中講義形式のほうが時間的余裕が取れるような気もした。
- ② 講義内容の順番は、順序通りのほうが、理解しやすいと思った。

NHI-7

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICT の役割について今後どのように横断的に活動していけばよいか指標となるものを知ることができた。しかし、実習先と自施設の規模は違うため自施設に合うように取捨し生かしていかなければならない。
- ② 清掃業務がいかに大切であるかを理解することができた。清掃の状況によっては患者、家族に与える印象は明らかに違い、療養生活をおこなううえでの与える影響は大きい。病院の質が問われる指標になると感じた。
- ③ 病院側にリスクを理解させるためにどう伝えるかは、メリット、デメリットをきちんと把握し提示できるようにしなければならない。

1-2. これからの自分への課題

- ① ICT を感染制御にどのように生かしていくか組織作りからすることが重要であり、形だけではなく活気ある ICT 委員会の運営を行えるようにする。
- ② 短期目標、長期目標を設定し年間計画を基に活動しなければならない。そのためには、自施設の問題点の抽出を早急に行う
- ③ 感染制御対策のメリット、デメリットをきちんと提示できるような知識、情報を得られるように継続的な学習をする

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習時間を増やし、自分で計画した対策など指導を受けながら実施し評価してもらうなど実践的な実習ができればいいのではないかと考える。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 自施設をラウンドすることにより標準予防策の遵守率の低いこと、スタッフの感染に対する意識など自施設の現状が明らかにすることができた。

感染管理は一人ではできないものなので協力を得られるメンバーを少ない人数ではあるが得られたことは非常に心強い。用度課の主任や細菌検査室の技師など。

- ② ラウンドをすることによって病院全体の感染に対しての意識が向上していくことを感じられた。

2-2. これからの自分への課題

- ① 自施設における感染のベースラインの把握が必要と考え、サーベイランスを実施するに当たり医師との連携を図る。また、サーベイランスを誰がやるか、どのように実施するか明確にする。
- ② ICT を実動部隊として活動していくに当たり、メンバーの選定をするためにそれぞれの役割を明確にしておく
- ③ 標準予防策の必要性を理解し遵守率の向上をめざすための学習会などの計画立案。(対象、時期、内容など)

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① ケアバンドルの介入実習が難しかった。ケアバンドルを使用するような症例に遭遇しなかったことなども上げられる。
- ② 先生方による自施設への訪問指導の際、必要な資料などを明確にしていただけるとありがたい。今後このような資料の、このようなことに注意することなど指導があると活動しやすかったのではないかと考える。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 感染業務をしていて困ったこと、悩んだこと、少し愚痴りたいとき聞いてくれるたくさんの仲間ができたこと
- ② 課題提出が厳しいこともあったが課題の一つ一つが今後の業務に必要なことであり自己研鑽の重要性を認識することができた。
- ③ 講義や実習を通していろいろな ICN の方たちに出会うことができ、感染制御に取り組む姿勢を間近に見る機会を得られることができ今後の自分の方向性を考えることができた。

3-2. 今後の課題

- ① 自施設実習のレポートだけでは、施設により差があり受講生のレベルも差が出ているのではないかと考える。
- ② 実習先・指導者の選定
講座の意義を理解している施設は非常に講座の意図を捉えて指導していただいているようですが、それが理解されていないと、説明と見学だけで終わってしまうことがあるのではないかと。

3-3. 改善すべきこと

- ① 基礎知識がかなり必要なので、購入テキストを指定したほうがよい。
- ② 状況設定問題形式のような課題があってもよいのではないかと。正解はないかもしれないが状況を設定されることで考えられる対策などを調べてレポートすることで実力が付くのではないかと。

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 看護職以外の他職種との連携の重要性
各職種の知識を基に感染制御策を検討することで、より根拠に基づく対策を実施できる。
- ② すべての職員への積極的なコミュニケーション
自分自身から積極的に声をかけ、コミュニケーションを持つ。受け身にならない。
- ③ リンクナースを始め職員の教育の重要性
リンクナースの教育が充実し、各病棟で対策が実施されることが病院内の対策につながる。

1-2. これからの自分への課題

- ① 自分自身からの積極的なコミュニケーション
声をかけてもらうことを受け身で待っている傾向があるため、一步前進し、自分からコミュニケーションを図る。
- ② 現場を大切にし、足を運ぶ
感染症や、問題が発生した際は、まずは現場へ足を運び、問題全体を取り巻く状況を把握する。
- ③ 専門知識の継続的な習得
分からないこと、疑問点、最新の情報を引き出せる方法を確立する

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習期間の延長
一週間でなく、もう少し実習期間が長いと ICN の実施している活動が多く学べるのではないかな。
- ② 実習時間の分割（前期・後期等）
自施設実習を始めてから実習に行くと、課題の解決策について学ぶなど、目的がより明確になり実習ができるのではないかな。
- ③ 勤務時間外の業務見学
時間外で実施されている業務内容やコンサルテーションなどの見学ができるのではないかな。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 今まで関わることのなかった職員とのコミュニケーションの実施
学校に通うまでは、話すことのなかった職員と関わるきっかけとなった。
- ② 自施設の課題の抽出・改善策の検討
今まで見えていなかった自施設の課題が明確となった。実習期間に集中して自施設の課題の抽出に取り組むことができた。
- ③ 学習内容との照らし合わせができたため早期に改善ができた

2-2. これからの自分への課題

- ① 実習期間に実施していたラウンドを継続的に実施し、積極的なコミュニケーションをとる
継続的に実施することが重要であり、自分自身を知ってもらう

- ② 最新情報の収集を怠らず、日々努力すること
 - ③ 職員との信頼関係を構築し、感謝の気持ちと、謙虚な心を忘れない
感染制御対策は自分一人では出来ず、協力が不可欠である。
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 通常業務と実習時間の勤務時間の調整
勤務調整をして頂いた事はとても感謝しており、病院の協力なくしては実習ができなかった。今後このような研修があれば協力が臨まれる。
 - ② 授業が終了した時点での実習の開始

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 素晴らしい先生方の下で学習することができた事
学長の自施設への訪問を始めとして、有名な先生方から貴重な授業をして頂き、多くのことを学ぶことができた。
- ② 全国に同じ目標を持ち、今後も相談できる仲間ができた事
学校に入学し、出会うことができた事は授業や、実習中に心強く支えとなった。
- ③ 病院全体で、今回の受講を応援していただき、自施設の改善のきっかけとなった事
受講をきっかけとして、院内全体の ICT の活性化、対策の見直しができる

3-2 今後の課題

- ① 細菌培養など学校での実習の検討があると、具体的で理解しやすいのではないかな
- ② 課題についての提出方法の統一
- ③ 指定施設実習と、自施設実習の日程の調整

3-3. 改善すべきこと

- ① 講義の時間割が、課題順であると理解がしやすいのではないかな
- ② 指定施設実習が選択できるとよいのではないかな

NHI-9

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICC の機能と報告・指示系統・組織図を学んだ。構築された感染管理システムと組織図、周知方法を知った。又、ICC の年間活動計画を学び、自施設組織の問題点と改善のポイントを掴むことができた。
- ② ICT の機能と活動を学んだ。実践組織である ICT 会議の開催日時・構成メンバー・活動内容を知り、ICT 会議の実際（耐性菌監視・抗菌薬の適性使用監視・耐性菌検出時の対応・検出患者への対策・医師との良好な関係維持）を見学し、自施設導入方法を掴むことができた。
- ③ ラウンドの実際を体験することができた。ラウンドの実施日時・方法・内容を見学し、有効な介入方法と各部署のリンクナース・師長との情報の共有・連動が確認でき、実践組織の活動方法を掴むことができた。
- ④ ICU・手術部の特性を知り、感染制御対策を確認することができた。

- ⑤ ICN の活動状況を学んだ。ICN の活動の周知・患者情報の把握・対応・看護部の協力・医局との連携は不可欠である。ICN の質の高さが適正な協働につながることを再確認した。
 - ⑥ サーベイランスの計画立案方法を ICN より学んだ。継続的多剤耐性菌サーベイランスの他、各サーベイランスと新規サーベイランス計画の導入方法を学んだ。
 - ⑦ データ収集方法を ICN より学んだ。サーベイランスの記入・評価・分析・対策検討を行うと共に病棟で現状把握を行っていた。自施設におけるサーベイランス手順としたい。
 - ⑧ ケースの判定方法を ICN から学んだ。ケースの判定方法・アウトブレイクの早期特定方法と対応・院内感染特定・ICN の介入方法を知った。
 - ⑨ フィードバック方法を ICN から学んだ。現場責任者及びリンクナース等への連絡・周知を行い、現場との協働とモチベーションアップ方法を深めた。
病院感染対策マニュアルの内容の確認を行うことができた。マニュアルは実動レベルで活用しやすくフロー化され、多岐に渡り作成されていた。エビデンスの明記と、文献・ガイドラインの記載があった。使用しやすい明示方法や必要なマニュアル項目を確認することができた。
 - ⑩ 標準予防策の遵守状況と必要性を ICN から学んだ。
手洗いのタイミングのマニュアル化と掲示方法・擦式アルコール製剤と PPE の適切な設置場所・周知の必要性を強く学んだ。
 - ⑪ 隔離予防策の基本と報告義務について ICN とマニュアルから学んだ。
 - ⑫ ワクチンプログラム管理の状況を ICN から学んだ。
 - ⑬ 針刺し等、職業感染についての職員に対する注意喚起の方法と発生時の対応を ICN から学んだ。
 - ⑭ 感染管理教育の方法を ICN より学んだ。新入職員教育・中途採用者教育・現任教育・リンクナース教育・院内研修について学び、中途採用者研修に参加し、実際に体験することができた。
 - ⑮ コンサルテーションの対象者（全職員）と内容・結果・良好なコミュニケーション方法を ICN から学んだ。
 - ⑯ 滅菌供給部門、機器管理部門等の施設見学によって特殊対策を学んだ。
清污導線区別、滅菌物のモニタリング・生物学的インジケータ使用による滅菌精度管理を学び、精度管理と確認の必要性を深く学んだ。
 - ⑰ 環境整備の必要性を院内ラウンドから学んだ。清掃業者にまでおよぶ教育と、洗浄・消毒・乾燥・ゾーン化の意識付けの重要性を学んだ。
 - ⑱ ファシリテイマネジメントを学んだ。空調管理と確認方法・設備設計・清掃様式を見学し、環境設定と職員の意識付けが急務であると学んだ。
 - ⑲ ICN が自ら積極的に取り組むことの重要性を理解した。
- 1-2 これからの自分への課題
- ① 感染制御実践戦略の基本を捉える。
 - ② サーベイランスの実践と分析を行い、適切にフィードバックを行う。
 - ③ アウトブレイクの早期発見方法を掴み、実践に活かす。
耐性菌・抗菌薬の知識を吸収する。
 - ④ 洗浄・消毒・滅菌の知識を得る。

- ⑤ 教育・指導・啓発の方法を学び、実践に活かす。
 - ⑥ より良いコンサルテーションの為に、コミュニケーション能力を高める。
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 自己の実習目標検討後の実習
 - ② 実習期間の延長
 - ③ 実際のサーベイランス体験
2. 自施設実習
- 2-1. 得られたこと
- ① スーパーバイザーからの感染制御における客観的指導による施設としての振り返り。
 - ② 感染制御は組織力であることを知った。
 - ③ 組織の再構築と役割の明確化の必要性を実感し、改善することができた。
 - ④ ラウンドによる環境整備における自施設状況の把握ができた。
 - ⑤ ケアー・バンドルを使用した評価方法の実践が行えた。
 - ⑥ 具体的指導を重ねることにより、改善が継続していくことを実感できた。
 - ⑦ 自施設の問題点の抽出と具体策の提示が行えた。
 - ⑧ 危機管理的視点での思考が重要であることが提言できた。
 - ⑨ サーベイランスの方法を掴み、実践することができた。
 - ⑩ コンサルテーションを実践し、難しさを認識した。
 - ⑪ 外部委託業者との契約状況把握と教育の必要性を認識した。
 - ⑫ 多職種との協働の重要性を再認識した。
 - ⑬ 自身の意見を通すためには、自己資質の向上と優良な人間関係の構築が重要であることを痛感した。
- 2-2. これからの自分への課題
- ① ICNとしての資質の向上（知識・技術・人間性）
 - ② 有効な人間関係の構築
 - ③ 組織の再構築と役割の明確化
 - ④ ICT活動の充実
 - ⑤ ICDとの協働
感染発生時の迅速な分析と判断
 - ⑥ 各マニュアルの読み込みと検討
 - ⑦ ICC・ICTの年間計画作成と実践
 - ⑧ リンクナース・全職員の教育
 - ⑨ 各委員会・多職種との協働
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 自施設での活動状況の周知
 - ② 業務時間内実習時間の確保

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 最高峰の講師陣から学び、実践看護師としての仲間を作ることができた。
- ② 感染制御実践戦略の基本を学ぶことができた。
- ③ ICN としての活動の意義・方法を学ぶことができた。
- ④ 最新情報の必要性和収集方法を知ることができた。
- ⑤ 自身を高める継続した努力と人間関係構築の重要性を深く学ぶことができた。

3-2 今後の課題

- ① 自施設の特性を分析し、学びの中から自施設対応を構築する。
- ② 自己研鑽。
- ③ 講座の課題としては、全国に講座を周知し、実践看護師の今後の活動状況の報告。

3-3. 改善すべきこと

- ① 講義期間の設定。（月に1回集中制など）

NHI-10

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 施設の取り組み、感染制御に携わるスタッフの実践活動を直接見学および指導を受けたことにより、感染制御に専従する自分の役割イメージ化につながった
- ② 他施設の構造、システムや教育体制などを自施設と比較、分析することにより、気付かなかった自施設の問題を明確化することができた
- ③ 1人の力ではなくチームの一員として役割を持って取り組むことの重要性、そのための役割意識を持って協力しあう人間関係の確立が大切であることを理解することができた

1-2. これからの自分への課題

- ① 感染制御に携わる担当師長として患者、看護師だけでなく医療従事者全員とその家族を感染から守るという役割意識のもと目標を持って取り組む
- ② 自施設の問題の改善に向けて情報の収集とデータの分析、改善策の提案を実行していく
- ③ 傾聴の姿勢と声かけ、アドバイス・指導など率先した行動を重ね、良好な人間関係の確立から協力支援体制を強化していく

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 指定施設による温度差が生じないように実習項目内容、見学項目内容をチェックリスト形式で表示する
- ② 1週間では見学実習で終わってしまうため2週間以上の期間が必要である
- ③ ケースカンファレンスの参加もしくは発表の機会があると意見交換しやすい

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 出向指導にて問題視されていなかった問題が明確になった
- ② 出向指導やラウンド実施により感染対策室をはじめ ICT、関連部署が改善策について話し合う機会につながっている

- ③ 得られた情報から問題を見つけ解決していくためには、ラウンドやデータ分析は目的意識を持って実行することが大切である
- 2-2. これからの自分への課題
 - ① ラウンド・サーベイランス・データなど常に情報を把握し問題点はないか分析する
 - ② ラウンド介入にて、各部署が率先して改善に取り組めるように問題提起と改善の評価を行いモチベーションが持てるように働きかけていく
 - ③ 計画性を持って取り組み評価していく
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 受講生の職位や所属部署によって感染制御に組織全体に介入していける場合と限られた介入となる場合があるので改善結果を求める介入については事前にテーマを課題として提示されていると行動しやすい
 - ② 提出課題は自由な形でまとめて提出できることはメリットであるが課題に合った提出物となっているのか疑問でもある。提出物については形式のフォーマットがあるとよい
 - ③ 実習の期間は講義が終了してから行えるとよい
- 3. **感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について**
 - 3-1. 良かったこと
 - ① 基本知識の習得と実習による応用の講義プログラムであったため基礎を学びつつ実習で自分が実践するための課題を見出すことができる
 - ② 感染制御の権威ある講師の方々から講義を受けることができたこと、質問などがメールのやりとりなどで行えたこと
 - ③ 実践で働く受講生達と知り合い、今後同じ道に向かって進んでいく仲間の輪ができたこと
 - 3-2. 今後の課題
 - ① 認定看護師のような有資格者ではないため、受講後の知識レベル維持や交流を定期的に行うことが必要である
 - ② 講座が継続される
 - ③ 施設実習、自施設実習の内容をより明確にし、より自主的に取り組めるようなプログラムとする
 - 3-3. 改善すべきこと
 - ① 講義内容は総論から各論に続くよう、実習は講義後に行えるような時間割を工夫する

NHI-11

- 1. **指定施設実習**
 - 1-1. 得られたこと
 - ① 組織横断的な人間関係の構築の重要性
 - ② 継続的な教育
 - ③ 委託業者との良好な関係
 - 1-2. これからの自分への課題
 - ① 組織横断的な人間関係の構築
 - ② 継続的で病院全体での感染教育

- ③ 委託業者との良好な人間関係
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 実習期間の改善（1週間以上）
 - ② 実習の時期（自施設実習との兼ね合いもあるが、後半が良い）
 - ③ 実習内容の明確化
- 2. **自施設実習**
 - 2-1. 得られたこと
 - ① 自施設での感染対策の実際
 - ② 組織の重要性
 - ③ 自施設の感染対策のシステムができ上がっている事
 - 2-2. これからの自分への課題
 - ① 感染対策への自信
 - ② 継続的な感染・医療の学びを深める
 - ③ 組織横断的で良好な人間関係の構築
 - 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 具体的な実習内容
 - ② 綿密な計画立案
 - ③ 委託業者への介入方法の検討
- 3. **感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について**
 - 3-1. 良かったこと
 - ① 一流の講師による講義内容と好意でのメルアドの提示は、今後の感染活動でのよりどころになると感じた。
 - ② リピート効果による知識の習得
 - ③ 電子媒体を用いたやり取り
 - 3-2. 今後の課題
 - ① 感染管理認定看護師の実際の活動状況
 - ② 特殊な場所での実践での感染対策について（例：手術室や中材に関わっていないと実際の状況が分かりにくいのではないか）
 - ③ 講習生の施設に他の講習生が見学に行き、その施設での感染対策状況を学ぶことで、自施設との比較ができるのではないか。
 - 3-3. 改善すべきこと
 - ① 講義プログラムの順序
（講師の都合もあると思うが、同じ系統の講義は、近い日程にして欲しい。内容も順序立てていただきたい）
 - ② 課題内容の直前変更は、可能であればない方がよろしいのではないか
 - ③ 講義が7限目までであることがあった。講師の都合もあると思われるが、平均的に組み立てていただけると良いかと。

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① **組織横断的に活動する ICN に必要な能力：調整能力・交渉力・コミュニケーション能力**
 - ・質の高い感染管理活動を組織的に推進するには多彩な能力や高度な専門的知識が求められるが、組織横断的な活動するには多くの職種を束ねる調整能力・交渉力とコミュニケーション能力が必須である。
 - ・それぞれの仕事や立場を常に理解し尊敬を示す事で良い人間関係を築き感染活動が推進される。
- ② **感染制御に適した環境が維持されるのは、定期的環境ラウンドの継続**
 - ・ラウンド結果は“出来ているところ”、“出来ていないところ”をデジカメ入りの報告書を用いて各部署にわかりやすく還元（前回の結果も必ず確認し改善の有無も評価）。
 - ・該当リンクナースが事前に自部署評価、またラウンドを補助しリンクナースの役割発揮が出来ている。
- ③ **データ、資料、報告書などの情報を上手に整理整頓・IT 活用をする。**
 - ・多くの感染関連のデータ、資料、報告書など必要な情報がすぐに入手・確認できるよう整理整頓することは感染管理業務を円滑にする。
 - ・情報収集や周知徹底するには現場での実践が確実な方法であるが、院内 LAN の有効活用と組み合わせることで双方の欠点を補うことが出来る。

1-2. これからの自分への課題

- ① **ラウンドやサーベイランスを定期的にかつ継続させる。**
 - ・実施していなかった環境ラウンドを定期的にかつ継続させる。
 - ・現場にある問題点を抽出・明確化し、感染制御に適したし当院に則した環境作りを目指す。
 - ・サーベイランスの目的、方法、評価、フィードバックを委員会メンバーと再確認、理解したうえで当院に必要とするサーベイランスを推進する。
- ② **円滑な感染管理活動をするために自分の役割を再認識し、委員会メンバーや職員を巻き込んだ感染管理実践をする。**
 - ・現場での活動を重視し、スタッフとの関わりやコミュニケーションを増やし人間関係作りをする。また、Dr とも積極的に関わるように心掛ける。
 - ・今後実施すべき多くの感染管理業務を出来る事からひとつ一つ手がけて積み上げていく。
 - ・視野を広げるために常に高いアンテナを張り、情報収集、選択、検討、活用する。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自分の実習への準備不足と時間の有効活用が出来なかったことが反省点

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① **環境ラウンドを実施し色々な部署の沢山の問題点を発見することが出来た。**
 - ・数を重ねる毎にラウンドする範囲が徐々に広がり、また観察視点の変化が感じられた。
 - ・外来部門や看護部以外の介入しなかった部門の現状や問題点を把握ができた。
 - ・色々な部門の職員と接する中で多くの生の声を聞くこと機会を得た。

- ② **特定抗菌薬の適正使用についてのカンファレンスを持つ機会を得た。**
 - ・感染症か否か、特定抗菌薬の適正使用の有無等を検討する症例検討カンファレンスを開始することができた。薬剤師の出席率が高く意見交換の場となった。
 - ・届け出用紙（感染症報告書・特定抗菌薬使用届出）や感染情報レポート、JNIS の情報などのデータが繋がっていない。活用されていない。メンバーで検討が必要。
- ③ **インターネットから情報を定期的にチェックすることを学ぶ**
 - ・最新情報をインターネットから得る事が出来る。多くの情報から選択し活用する能力が必要。
- ④ **毎週の自施設実習を実施することで週間計画の大まかな流れを作り出すことができた。実習が終了後も継続し、年間計画を組み合わせることで活動できる。**
- ⑤ **大久保教授と吉田認定看護師の自施設ラウンドはスタッフに良い刺激になり成果大。**
 - ・指摘事項についての科学的根拠に基づいた説明はスタッフの十分な理解を得た。
 - ・ラウンド時に院長、理事長をはじめとする Dr、Ns、コメディカルの参加と協力的な姿勢を知ることができた。私にとっての心強い仲間である。

2.2. これからの自分への課題

- ① **感染管理プログラムに沿って当院の感染管理システムの見直しと再構築。**
 - ・感染対策委員会組織の再構築（ICT、リンクナース位置付けと構成メンバーの変更）
 - ・実践現場の中心となるべきリンクナースの役割が不明確。役割モデルになるよう教育計画、日常的な活動体制を早急に整備する。
- ② **感染管理組織の軸となり病院全体に継続的に関わるための自分自身の組織における位置付けや役割を明確にする。長期、短期目標設定し計画を立案実施する。**
 - ・感染対策委員の意識改革し、組織の再構築を初めに体制を整える。
 - ・管理部門への支援体制を確立する。
 - ・安全管理室や安全衛生委員会と協働で組織横断的に活動する。

2.3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① ・自施設実習を開始し学ぶことが多かった。業務をしながらの研修は時間調整が難しかったが、非常に実践的な実習であると思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① ・感染管理の 8 つプログラム全体を系統立てて認識しそれぞれの目的を理解することが出来た。それぞれのプログラムが“点”としてしか捉えられなかった。今は“線”として繋がった。（過去はラウンド、サーベイランスの実施が目的としてとらえていたが、今は感染制御のための手段として実施することが理解できた。）
- ② ・多くの講師の先生方や認定看護師の先生方の感染制御の実際は非常に参考になった。
- ③ ・自施設以外の感染対策の実態を知る機会が少なかった。色々な施設のリアルな悩みや問題を知り共有することが出来た事は何より心強かった。
- ④ ・同期の生徒さんや講師の先生方とのネットワークが出来た。
- ⑤ ・『コンサルテーション』という問題解決のプロセスを確認することができた。コンサルティ自身が問題解決するために援助、助言する姿勢とすることは感染制御だけでなく管理者

でもある自分に不足していた部分と反省できた。

3-2 今後の課題

- ① ・今後、認定看護師のようなフォローアップ制度は？

3-3. 改善すべきこと

- ① ・講義される講師の先生のご都合で仕方がないと思いますが、講義内容が総論と各論が逆になる時があり、知識不足の自分には理解するのに時間がかかる時があった。

NHI-13

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 指定施設実習ではその施設での実際の感染制御の方法を見ることが出来とても参考になりました。病院の規模や施設、システムなどのハード面では参考にはできない部分が多かったのですが、現在自施設で行っていることに対する疑問を持つことができた。
- ② 実習記録を記入してからの実習だったので、自施設の問題点のある程度把握した状況での実習だったので、前半の方よりはやり易かったと思いました。
- ③ ICN が、ICT の中で、チームコーディネーターとして活躍していた。また、病院内の情報が自分に集まるような、パイプラインができていた。自施設での今後の活動に役立つものとなりました。

1-2. これからの自分への課題

- ① ICT の中で ICN として、各専門職が機能的に活動できるように、コーディネートする能力を身につけること。
- ② ラウンド後のフィードバックの方法を変更し、病棟スタッフが興味をひく内容に変更できるようにすること。
- ③ 現在、SSI サーベイランスしか行っておらず、実習で BSI を施行している。当院でのサーベイランスを強化し、ベースラインを明らかにしていく。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習日数が4日間と短かった。もう少し時間が確保できれば良かった。
- ② 指定施設のスケジュールを考慮したうえで時期をきめて頂きたかった。実習時間がさらに絞られてしまった。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 毎週ラウンドし介入することで、改善されていきました。継続しラウンドすることの重要性を感じました。
- ② ICD 指導のサーベイランス実習では、感染症の判定や、感染経路の特定の方法を身に付ける機会となりました。
- ③ 実習記録にて自施設の問題が明らかになってからの実習だったので、改善すべき点が明確になり、アプローチし易くなった。今後はファシリティーマネージメントをより理解していく。

2-2. これからの自分への課題

- ① 挙げられた問題点を改善するため、組織ぐるみで改善するように働きかけていく。組織での自分の立場を明確にし、組織を理解する。
- ② 現在使用しているマニュアルを見直し、視認性のよい、見やすい物に改定していく。リンクナースや医師も改定に参加してもらい行っていく。
- ③ ICN 1 年目として、成果が目で見えて評価できるように年間スケジュールをたて行動していく。また、それを、上司やスタッフにアピールできるようにしていく。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 年末が入ってしまい、病院機能が低下した中では実習がしづらかった。ICD も休みに入ってしまうため、時間がなく十分な実習が行えなかった。
- ② 自施設実習の報告会は実習が終了してからにしてほしかった。
- ③ 実習をやっている、これでいいのかと不安になりました。また、10 週連続では夜勤などの勤務をしながらなので、休みにも出勤しなくてはならぬ大変でした。中間報告や中間指導があれば、このような不安や迷いは軽減されたと思いました。(2 クール制)

3. 感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)について

3-1. 良かったこと

- ① 講師の先生方が、親身になり相談に乗って下さいました。みなさん、メールアドレスを教えてくださいまして、対応も早く、とても助かりました。
- ② 講師の先生が一流の方々と、とても嬉しく、光栄に感じながら授業を受けることができました。
- ③ 色々な立場の受講生が参加しており、自分と同じ問題を抱えている人がいて、相談しやすく、問題解決に向けて行動できた。

3-2. 今後の課題

サーベイランスなど、やったことがないことに対する指導をして頂ければ良かったと思いました。やっていると、正しいのか不安になります。

3-3. 改善すべきこと

- ① 6 時限のカリキュラムは集中するのが困難でした。できれば、5 時限までのカリキュラムにして頂きたかった。
- ② 予定変更が多く、混乱してしまう場面がありました。

NHI-14

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

① ICN の役割と実際の活動

実際に活動している施設に伺い、1 週間の業務や臨時に介入する姿を直に見て学ぶ事ができました。計画書やマニュアルなどの整備の仕方や実際の運用についても尋ねる事ができ、自施設で作製・運用する方法を具体的に考える事ができました。

② 自施設に必要なまたは不足している事が具体化した。

自施設との違いを知ることにより、現状で出来ていない事や取り入れたい事、実施すべき

事などが明らかになった。ICT・ICCの活動そのものやシステムの整備なども含め、多くの改善事項が見えるようになった。

③ 構造と使い分け

感染症の患者が他の患者と交差することなく移動できる構造をみる事ができた。そのルートを通して見学し、運用方法などの説明を受ける事でより理解が深まった。施設のハード面を変更することは容易ではないが、現在の状況の中で交差感染を予防するルートについて考える機会となった。

1-2. これからの自分への課題

① 自施設に合わせたスタイルで導入・運用する。

実習の中で、導入したいと思ったシステムや情報収集の方法・形式があった。一つずつ自施設にとり入れる事が可能かを検討し、自施設にあわせたスタイルで作成、運用したいと考えている。

② 感染制御活動が機能しているか判断し、改善につなげる。

ラウンドを含めたICTの活動やリンクナースの教育、マニュアルの内容などを見直し、自施設での感染制御活動が適切であるか、機能しているかを判断していく。また、指定施設での取り組みを参考に、改善策を考えたい。

③ 他職種との協働

ICNの他職種とのつながりの広さやコミュニケーションの巧みさを学ぶ事ができた。現在は看護部や医師、一部のコメディカルとの関わりしか取れていないため、ラウンドを通して関わりを深め、感染制御活動が施設全体で行えるようにしたい。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

① 5日間の実習を2回（自施設実習開始前と自施設実習5週目あたり）が希望。

1週間で、指定施設の状況やICNの活動を体験し、自施設で取り組める事や課題を持ちかえり自施設実習を開始する。自施設実習中に疑問に思うこと、確認したい事などが出てくる。2回目の実習では自施設での問題がさらに明確になった状態で、学びを得る事ができるのではないかと考える。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

① 感染制御活動を実際に行うことの難しさ

各部署の活動状況やスタッフの理解度・感染制御への意識の高さなどを掴んだ上で、言葉・方法を選んで伝える事の難しさが解った。また、良い点・悪い点などを上手くフィードバックする事が重要であり、難しい事も学ぶ事ができた。

② 新たな活動を始めるには費用などを含めて総合的に考える必要がある。

新たなシステムや活動を始めるには、どの職種の協力が必要なのか、検査費をはじめとするコスト面を考えた計画が必要であることが学べた。また情報の伝達なども含め、様々な事を考えなければならない事を学んだ。

③ ラウンドと介入により少しずつでも改善する。

1～2週間隔でのラウンドを行い、ラウンド結果をフィードバックする事で各部署での感染対策・環境の改善が見られた。ファシリティなど予算を要するものは時間を要するが、部

門で取り組める点に関しては介入により少しずつではあるが改善が着実に進める事がわかった。

2-2. これからの自分への課題

① 情報収集と整理。

検出菌情報、患者の状態など多くのデータから感染制御に必要な情報を適切に収集し、活用しやすいように整理することが課題である。それらの情報から問題と対策を考えて行く事が必要と考える。

② 施設内職員とのコミュニケーション

看護部や医師の中では感染制御活動を行っている事が広まってきている。しかし、その他の職種では感染制御活動の認知度が低い。多くの部署・スタッフとコミュニケーションをとり、ICNの役割・活動の理解を広めていこうと考えている。

③ ICNとして活動計画を立て、実行する。

ICTの年間活動計画と共に、ICNとしての活動を週間・月間・年間と計画立て、実施していく事が必要と考えている。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

① 研修時間の確保

病棟勤務で夜勤や欠員などによる勤務調整もあり、勤務時間内での研修時間の確保が難しく、時間外での活動となることが多かった。自施設実習時間の確保については、研修生と所属部署・施設との調整ではあるが難しいのが現状であった。

② ICD 指導によるサーベイランス実習

ICD への相談は行えたが ICD 自身がサーベイランスの経験が少なく、計画書の段階で、他部門からの指摘により気付く点があるなど、開始前の時点で時間を要した。ICD がどのような点について指導するかなど、提示していただけたらと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

① 多くの施設の方との情報交換。

各地の施設から専従・管理職・リンクスタッフなど様々な研修生がおり、それぞれの立場での感染制御活動の問題や悩みなどを話し合い、自施設にとり入れる策を考える事ができた。

② 講師に恵まれ、最新の知識を学ぶ事ができた。

著名な講師の講義を受ける事ができた。感染制御の歴史から最新情報、今後進んでいくであろう事柄など様々な話を聞き、学ぶ事ができた。

③ 実際の業務と知識の習得を並行して行える。

講座での学習を進めながら自施設で感染制御活動する事で、問題が見えるようになり、具体策を考え実施・評価する事を学ぶ事ができた。マニュアル内容の見直しや介入方法を考える中でエビデンスなどを調べるなど、実務を通しての学びを得る事ができた。

3-2 今後の課題

① 時間の確保と調整

研修生個人の働きかけ方もあるが、専任・専従でない状態で自施設実習を行うための時間

の確保が課題である。また講義内容の整理や課題に取り組む時間が取れない事も多く、施設や当該部署との調整をどのように行っていくかが非常に重要と考える。

② 講義内容のすり合わせ

基本から学習ができたが、中にはかなりの部分で内容が重複している講義もあった。重複している内容は重要な点であると考えが、切り口が異なっていると興味をもって聞く事ができると思う。

3-3. 改善すべきこと

① 集中講義の時間数

座学になれない事もあり、4限以上の講義は集中力・注意力の低下が著明であった。当日の学びの整理や振り返る時間の余裕がないまま1週間が過ぎてしまう事もあるため、可能ならば4限を限度に調整をお願いしたいと思った。

② 毎週の講義を土日に。

毎週土曜日の講義だったが、遠方から来る研修生の移動時間や費用の点から週2日で隔週にするなどが良いと感じた。

NHI-15

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① サーベイランスの実際、対象、方法、ワークシートの活用方法
- ② 多職種の連携による患者介入とICTラウンド
- ③ 手指衛生の環境と徹底

1-2. これからの自分への課題

- ① 対象サーベイランスの実施とフィードバック
- ② 多職種の連携と積極的なコミュニケーション
- ③ 手指衛生に対する動機づけ

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 受動的ではなく主体的に臨んでいく姿勢
- ② 目的を明確にしておく必要性
- ③ 講義すべて終了後の指定施設実習

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① サーベイランスの実践
- ② ラウンドによる介入・現場指導の大切さ
- ③ マニュアルの周知にはエビデンスの理解が必要

2-2. これからの自分への課題

- ① サーベイランスの継続
- ② ラウンドによる積極的なコミュニケーション
- ③ マニュアルを実践に繋げていく

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 大学院担当指導者のラウンドは改善の契機
- ② スタッフ不足による実習時間確保の難しさ
- ③ ICD との時間調整の難しさ

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 感染制御に関する新しい情報、知識の獲得
- ② 感染制御の仲間作り
- ③ 学びを実践に生かす方策

3-2 今後の課題

- ① 感染制御の学びを自施設で実践
- ② 感染制御の仲間との交流
- ③ 感染制御に関する新しい情報収集

3-3. 改善すべきこと

- ① 4月から9月までの開講
- ② 課題に対するコメントの遅延
- ③ 計画的な課題

NHI-16

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 他職種と連携し、横断的な関わりをする。
- ② ICTメンバーの意識を高めるためには、問題の共有と、メンバーひとりひとりに責任を持たせることも大切である。
- ③ ラウンドの結果、サーベイランスの結果を効果的にフィードバックし改善につなげる。

1-2. これからの自分への課題

- ① ICTの活動を充実させていく。そのために、ICTメンバーとの連携を密にし、会議、ラウンド、勉強会を企画・運営していくことで情報の共有化とモチベーションアップに繋がられるようにする。
- ② サーベイランスの目的、データの活用目的、現状の改善点を明確にし、サーベイランスを実施していく。また、サーベイランスの結果を効果的にフィードバックすることができるようにする。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① A日程とB日程ではスケジュールに4週間の開きがあった。指定施設実習後に自施設実習が開始されるため、その間、焦りを感じた。できればあまり開きがないほうが良いのではないかと思った。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 自分の施設で実習をし、問題意識を持ち病院を見ることで、自施設のことがよく見えてい

なかったことに気づいた。

- ② 通常の業務では、当該部署と関係のあるところにしか行くことがなかったが、普段行くことがないところを訪し現状を知ることができた。
- ③ いろいろな場所を頻回に訪室することで、人脈を広げられることができた。
- ④ ケアー・バンドルによる介入実習をしたことで、マニュアルの再確認と実践状況を確認することができた。

2-2. これからの自分への課題

- ① 見ようとしなければ何も見えてこないことがわかったので、ひとつずつ問題意識を持って物事を見ていくようにする。
- ② ラウンドでの指摘事項をその時は前向きに取り組んでくれるが、継続されないことが多いため、継続させるための努力をする。
 - ・必要なことは言い続ける。
 - ・物事を動かすためには誰に相談すればよいのか見極める。
 - 良好な人間関係を築く。
- ③ マニュアルの見直しと改訂をする。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自施設実習中の時間の確保と、デスクワークをする場所の確保ができれば良いと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 小林先生から自施設で直接指導を得ることができ、以前から ICT として問題提起していたことが組織的に動くようになった。
- ② 実際の活動を報告し、それに対する具体的な指導をもらえる。
- ③ 困っていることなどを相談すると諸先生がたからすぐアドバイスがもらえる。
- ④ 同じ目的を持つ仲間ができ、情報の共有やいろいろな相談ができる。

3-2 今後の課題

- ① 知識、技術を習得するための努力
- ② 得られた知識や情報を周知させていくための工夫。
- ③ 組織横断的に活動するための能力の向上。

3-3. 改善すべきこと

- ① 研修中、事務の方々にも大変お世話になったり、精神面でも支えていただいたりしています。できれば、研修終了するまで担当の方が変わらずにいてくれると心強いと思います。

NHI-17

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICT 組織の役割と活動の実際について
- ② サーベイランスの意義や必要性
- ③ 感染制御は患者様や病院スタッフを守るという意識が大切

- 1-2. これからの自分への課題
 - ① 耐性菌サーベイランスラウンドのサーベイランスシートを作成する
 - ② 環境ラウンドのチェックポイントを学び、週1回のラウンドを実践
 - ③ 感染制御に対する職員・非職員への教育
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① ICD と ICN の関わり
 - ② コンサルテーションの実際
 - ③ デバイスサーベイランスの実際

2. 自施設実習

- 2-1. 得られたこと
 - ① 耐性菌、主要菌サーベイランスの重要性、アウトブレイク時の対応
 - ② 定期的な環境ラウンドの必要性
 - ③ 抗菌薬の適正使用について
- 2-2. これからの自分への課題
 - ① ICT のそれぞれの職種の役割を明確化する
 - ② ICT による週1回の微生物サーベイランス・環境ラウンドの確立
 - ③ 感染制御の教育（職員・非職員）
 - ④ アウトブレイク時の対応
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 自施設実習の指定実習時間を1日3時間、時間内に確保してほしい
 - ② できれば全額支給で講座を受けさせてほしい（新たな受講生が入学できるように）

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

- 3-1. 良かったこと
 - ① 日本の感染制御のトップ走る先生方の講義を受けられたこと
 - ② 全国の病院の感染制御に意欲を燃やす仲間に出会えたこと
 - ③ 講師の先生方の直接指導や質問や悩みなどに対するメールでの迅速な対応
- 3-2. 今後の課題
 - ① 自施設実習での課題が感染制御以外の通常業務を行っているものにとっては多かった
 - ② eラーニングの教育体制もあるとよかった
- 3-3. 改善すべきこと
 - ① 予定変更が多い
 - ② 講義内容が充実している分、集中講義期間の6コマ目はつらかった

NHI-018

1. 指定施設実習

- 1-1. 得られたこと
 - ① サーベイランス：実施する際には、プロセスを構築する。（関連部署に計画書を提出、情報収集、ケースの判定、SSI ケースレポート提出（主治医による記載）、フィードバック（院